

平成30年7月豪雨における日吉ダムの洪水調節効果 淀川水系桂川(京都府)

- 活発な梅雨前線の影響により、まとまった降雨が断続的に発生。日吉ダム流域における累加雨量は492mm、最大2日雨量は421mm(7月5～6日)を記録し、ともに観測開始以来最大。特に最大2日雨量は、ダムの計画雨量349mmを超える豪雨。
- 洪水時最高水位を超える水位まで貯水池を活用して洪水調節を行い、総量約4,400万m³の洪水を貯留。ダムへの最大流入時に下流へ流す水量を約9割低減。
- これにより、ピーク流量の発生時刻を約16時間遅らせて避難時間等を確保するとともに、ダム下流河川の流量を低減させ浸水被害を軽減。

